

シンガポールをパートナーに アジア地域の戦略を推進する武田薬品

武田薬品工業株式会社 代表取締役社長
長谷川 閑史 氏

日本発の世界的製薬企業への飛躍に挑戦する武田薬品。今年7月に販売統括会社と臨床開発子会社をシンガポールに正式に設立。アジア地域での事業を強化しています。同社の長谷川社長に、シンガポールを拠点とした事業展開の価値と可能性について伺いました。



シンガポールは機動的に活動できる拠点

シンガポールはアジアのハブ機能を担っており、アジア地域におけるビジネス慣習、マーケット動向、競合状況に精通した優秀かつプロフェッショナルな人材が数多く集まっており、人材を専門分野ごとに確保しやすいことが選択理由の一つです。

また、英語が公用語であること、地理的にもアジアにおける臨床試験実施対象国の中心に位置していること、市場に近い場所から機動的に活動できること、かつインフラ・都市機能・政治的・経済的安定性などの面から総合的に判断し、シンガポールを設立地として選択しました。

熱意と明快さに安心感を得た

シンガポール経済開発庁は、担当者から幹部まで、非常に若い方が多く、エネルギー感であることに驚かされました。ビジネスに対する理解も深く、シンガポール経済開発庁をはじめ政府の熱心な勧誘から、設立後も親身になって我々をサポートしてくれるであろうことが確信できました。

シンガポール経済開発庁では、企業ごとにきめ細やかな対応をされており、状況に応じた提案とフォローをしてくれます。シンガポールを選定すれば、どのようなメリットがあり、どんなサポートが受けられるのかがはじめから非常にクリアであり、安心感がありました。

さらなる発展が期待できる シンガポールのバイオ医科学産業

シンガポールでは、世界の有力な研究者の招聘と産官学共同研究のオーガナイザーへの登用、産学共同研究への積極的な投資、それらの研究成果や遺伝子情報の国家レベルでのデータ

ベース化と産官学での有効活用など、政府主導の大胆な施策が収穫期に入りつつあるものと考えています。今後は、特にファーマコジェノミクス(*注1)、トランスレーショナル・メディシン(*注2)、アジア主導のアウトカム試験(*注3)などのデータ構築において、シンガポールが主要な役割を果たし、アジア地域の臨床研究拠点となることは想像に難くありません。また、生産拠点としても企業誘致に力を入れるなど、シンガポールは、アジアにとどまらず、今後グローバルでプレゼンスを示していくものと期待しています。

患者さんのために、一日でも早く成果を

アジア地域における研究拠点である武田シンガポール社に引き続き、開発拠点として武田クリニカル・リサーチ・シンガポール社を設立できたことにより、シンガポールのバイオ医科学研究共同体と一層の交流を深めていきたいと考えています。

販売統括会社である武田ファーマシューティカルズ・アジア社では、アジア5カ国(台湾、タイ、フィリピン、インドネシア、中国)の販売子会社を包括的に管理し、販売・マーケティング・アジア地域における未進出国への自社販売網拡大を中心に中長期的視点に立ったアジア地域における最適戦略を推進していくとともに、武田クリニカル・リサーチ・シンガポール社と協力を図り、市場ニーズに即した承認取得を実現、上市後の製品付加価値最大化に向けたLCM(ライフ・サイクル・マネジメント)戦略を推進していきます。これらの取り組みによって、一日でも早く優れた新薬を患者さんに提供し、医療の発展に貢献していきたいと考えています。

(*注1) ファーマコジェノミクス：遺伝子解析結果を用いた創薬、薬理学

(*注2) トランスレーショナル・メディシン：

非臨床と臨床試験をスムーズにつなぐために、最新の知見を直接的に臨床開発に利用し、治療に結び付けようとする取組み

(*注3) アウトカム試験：患者の予後を評価する臨床試験